

# 【平成25年度第3回伊豆市議会定例会】

議案第 59 号【平成 24 年度伊豆市一般会計歳入歳出決算認定について】  
 ※歳入決算額 168 億 4,289 万円 ※歳出決算額 155 億 447 万円  
 歳入歳出差引総額 13 億 3,842 万円のうち、コミュニティ FM 開局助成金、  
 土肥総合会館解体工事費などの翌年度事業実施分の繰越財源 5 億 1,483  
 万円を差し引いた実質収支は、**8 億 2,359 万円の黒字**になりました。  
 議案第 76 号【平成 25 年度伊豆市一般会計補正予算（第 3 回）】につい  
 て、歳入歳出 6 億 8,472 万 2 千円を増額し、歳入歳出予算それぞれ 163  
 億 790 万円にするものです。市内公的病院である日本赤十字病院と中伊  
 豆温泉病院に対する救急医療体制の強化や、住民の安全・安心にかかわ  
 る防災対策事業、そして修善寺温泉街の一方通行化に対応した遊歩道の  
 整備などの観光施設管理事業等です。すべての議案は可決しました。

9 月議会

## 平成24年度決算認定議会

# 小長谷順二通信

Vol.4 号



### 西伊豆町災害ボランティアに参加

7 月の大雨で大きな被害を受けた西伊豆町に災  
 害ボランティアとして参加しました。すべてが手作  
 業の為、重労働でした。地元では、狩野川台風以降  
 大きな水害はなかったそうです。近年ゲリラ豪雨も  
 頻繁に起こっていますので、いどこで災害が発生  
 しても不思議ではありません。伊豆市では災害ボラ  
 ンティア登録を準備中です。興味のある方は、伊豆  
 市社会福祉協議会までご連絡を！

小長谷順二 後援会事務所  
 伊豆市土肥 450-7  
 TEL/FAX 0558(98)0400  
<http://jkonagayablog.fc2.com/>  
 Email photo-ko@vcs.wbs.ne.jp

### 『伊豆市関連道路整備情報』

伊豆中央道路・修善寺道路が来年度  
 の『できるだけ早い時期』から最大半  
 額になるように実施する準備を進めて  
 いる、という記事が伊豆日日新聞に掲  
 載されました。先日の議会でも、回数  
 券方式で 160 回券を購入すれば半額に  
 なるという説明が、県の職員からあり  
 ました。昨年の社会実験を経て、東駿  
 河湾環状道路完成に合わせ、住民の要  
 望に応え前倒しすることにしたとの事  
 です。伊豆中央道路・修善寺道路事業  
 を一本化して、2023 年度中の償還（無料  
 化）を見込み、江間交差点の立体化・  
 フルインターチェンジ化も同事業で行  
 う事業計画変更案を、県議会に提出し  
 ました。本来の料金徴収期限は伊豆中  
 央道路が 2015 年 3 月末、修善寺道路は  
 2025 年 8 月末だが、両道路の建設借入金  
 の償還に合わせて同時無料化するため  
 に伊豆中央道路で有料期間が延長され  
 る一方、修善寺道路では短縮されます。  
 現在の伊豆中央道路の自動料金所も有  
 人になり、最初に回数券を渡せば、そ  
 のまま通行可能になります。

東名・新東名高速道路沼津インター



現在の江間交差点を立体化してフルインターチェンジ化  
 写真奥の自動料金所も有人料金所として回数券で対応予定

から、修善寺大平インターまで  
 自動車専用道路でつながり、伊  
 豆がグッと近くなります。  
 平成 29 年度中には現在工事中  
 の天城北道路や、(仮称)下船原バ  
 イパス(矢熊からトンネルを掘り  
 136 号の旧甚五郎付近に出る新し  
 い道路)が完成する予定です。  
 また現在工事中の土肥新田上の  
 バイパス工事も同時開通を目指  
 して進めております。  
 ※時流に乗り遅れないように  
 しつかりと計画をたて、『内陸フ  
 ロンティア』への参画も含め、  
 このビックチャンスをものにし  
 て行きましょう！

# 一般質問

Q. 市政 10 周年を迎えるにあたり

A. 人口減対策として、雇用創出、所得向上、定住促進の三つの重点対策では、不十分と考え、市民参加型パネルディスカッション（未来づくり大作戦）を1年かけて実施していきたい。『大人が楽しそうでなければ、若い人たちが楽しい未来は描けない。われわれは若者の、若者は子供たちの目標とならなければならない。私たちが楽しく、幸福感を感じられるようなまちづくりをやっていきたい』と、専門家を交えて【教育】【まちづくり】などの重点テーマごとに年3回程度開催し議論を深めていきたい。

Q. ゲリラ豪雨対策について

A. 災害対策本部をすみやかに設置した後、災害時に於ける応急対策業務に関する協定を建設業組合等と結んであるので、重機等で復旧に対してすばやく対応する。

・ボランティアの受け入れに対しては、社会福祉協議会で伊豆市災害ボランティアセンターを立ち上げ受け入れ態勢をおこなう。またマニュアルも出来上がっているので伊豆市と協議して、場所等の状況を考慮して設置をおこなう。平成23年度から立ち上げ訓練を実施しているので、いろいろな状況を想定して、訓練を積み重ねていく。

・土肥地区の陸閘閉鎖の水はけ問題は、小さな河川にもタラップゲート（水の力で開閉する水門）を採用し、陸閘が閉じたままでも、雨水が貯まらないようにしていく。

Q. 南海トラフ巨大地震発生時の食料備蓄について

A. 食料備蓄の条例化（努力目標）を検討し、3日間程度の食料・飲料水などを企業や家庭でそれぞれ備蓄していただく努力をお願いしていく。

・現在の伊豆市保管の食料備蓄は、アルファ米が1万食。サバイバルフーズ2万食。アルファ米は期限が5年なので、年に2000食を更新しています。土肥地区の備蓄食料は、津波被害対策として、今後は防災倉庫に分散して備蓄する。今回の補正予算（3回）で、防災備品消耗品として、飲料水用のペットボトルも追加する事としたので、伊豆市としても一定の食料備蓄を今後も継続的にこなっていきます。

・自治会での食料備蓄は、防災敷材の整備の品目に非常食の申請が出来るので、全額補助ではないが、援助する事は出来るので、少しずつ進めていきたい。

小長谷順二 第3回市政報告会

平成25年10月18日（金）

PM7時より

伊豆市土肥支所 4F会議室

小長谷順二

検索

ブログ更新中！！